



うきは市「安全・安心のブランド化」に向けて

1月26日市役所で、うきは警察署小洞副署長から、地域の治安状況について職員に説明がありました。管内の刑法犯認知件数が県下最小(人口1千人当たりの件数も県下最小)であることなどを踏まえ、「安全・安心」の取組は観光地や移住先としての魅力向上にもつながる部分もあり、一層の推進を呼びかけました。



第2回支えあいのまちづくりフォーラム

1月26日うきは市役所で上記フォーラムが開催され、地域包括ケアシステムの構築にむけて各小学校単位で「協議の場」づくりの勉強会が順次開催されるなか、江南・御幸・大石地区の取組をもとに、誰もが安心して暮らせる地域づくりにむけて、意見が交わされました。



1月26日、市内の小中学校一斉に「自分でつくる」弁当の日」この取組は、子どもたちが自分で献立・買い出し・調理・弁当づめ・片付けまでのすべてを行い、食べ物やそれらを作ってくれる人への感謝の心を育み、自分で食事を作る力を培う目的で、小学校で年6回、中学校で年3回取り組まれています。(写真=1月26日、浮羽中学校での様子)



「浮羽まると博物館」特別講演会

1月26日、生涯学習センターで、九州大学総合研究博物館・三島美佐子准教授が、「博物館」を考える」をテーマに、うきはの持つ豊富な地域資源を活用して、人々の暮らしへとつなげていくことの大切さについて講演されました。



火災から文化財を守る「文化財防ぎょ訓練」

1月28日、農耕絵馬などが文化財として指定を受ける諏訪神社(浮羽町田箆)で、地域住民による火災通報・初期消火・文化財搬出、消防による消火活動と、火災から文化財を守るための一連の防ぎょ活動が訓練されました。



三春工業団地で、森永食研㈱うきは工場の起工式

昨年、三春工業団地(浮羽町三春)進出が決まった医療・介護給食等の受託事業を行う森永食研株式会社(本社：大分市)のうきは工場新築工事の起工式が1月22日、関係者の臨席のもと行われました。今夏の事業開始にむけて、工事が行われます。(写真＝森永隆美代表取締役のあいさつ)



没後91年、「嫩葉会」主宰・安元知之氏の慰霊祭

大正12年山春村で結成された農民劇団「嫩葉会」主宰の医師安元知之氏の命日に合わせた慰霊祭が、1月19日、活動を伝える記念碑(昭和35年、団員等が安元家敷地内に建立)前で行われ、うきは夢酔塾など顕彰に取り組む参加者が功績を称えました。



第29回とびうめ国体記念大石堰駅伝大会

大石地区自治協議会の主催により1月21日大石放水路(約2km、5区間)で開催され、市内外の小学生(男子26チーム、女子13チーム)がタスキをつなぎました。



姫治小学校で茅葺き屋根の葺替えを模擬体験

姫治小学校のある新川田箆は茅葺き民家が残ることで国から伝統的建造物群保存地区の選定を受けています。1月23日、学校近くの民家で作業中の職人の指導により、児童が屋根を模した竹組にひもでわらを縛りながら葺替え作業を模擬体験しました。

インバウンド講習会(全2回、開催中)

～外国人観光客のおもてなしに関する知識・スキルを身につけよう!～

本市を訪れる外国人観光客が少しずつ増えるなか、2回にわたり外国人のおもてなしに関する知識・スキル向上を目的とした講習会を開催中です。

第1回目は1月23日に開催され、講師の通訳ガイド・水谷みずほさん(みずトランスコーポレーション)から以下のようなお話がありました。

「外国人にも人気の浮羽稲荷神社・・・観光客から教わる魅力」

“SNS映え”することで浮羽稲荷神社(浮羽町流川)に市外から多くの方が訪れていますが、水谷講師も外国人を最近3か月で5回案内されました。

山腹に赤の鳥居が連なる風景が喜ばれていて、地元であまり気付かなかった魅力を市外や外国からの訪問者から教えられる例として紹介されました。



※第2回目を以下のとおり開催しますので、御参加ください。

日時:2月20日(火)19時～21時、場所:うきは市民センター 3階会議室

※詳しくは、2月1日号8ページを御覧ください。



▲ 通訳ガイドの体験談を語る講師



▲ 外国人にも人気の浮羽稲荷神社